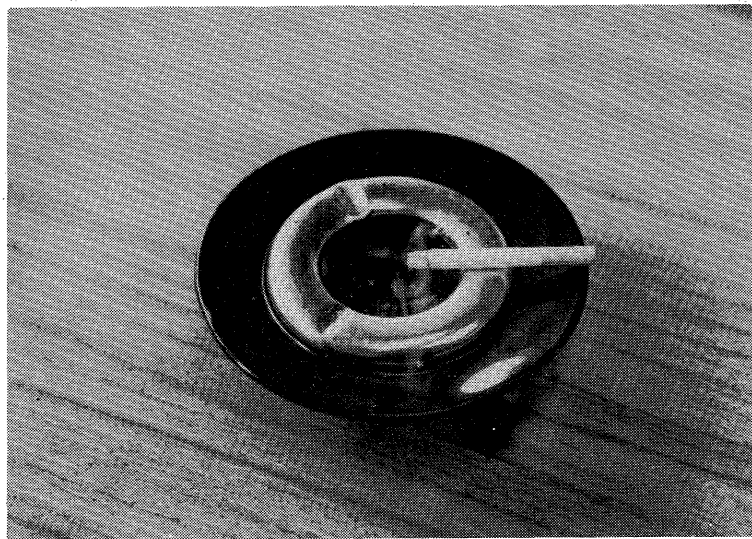


—11月1日推計人口—

人口総数	73,960	世帯数	21,738
男	35,579	面積	16.07km ²
女	38,381		

火災のないまちへ

わが家は安全ですか



身の回りをもういちど確かめよう

「マッチ一本火事のもと」—ちょっとした不注意が火災の原因になっています。冬は火災の発生しやすい時期です。いまいちどみなさんの身の回りを点検し、火災を未然に防止するよう万全を期してください。今回は、火災発生時の現状をお知らせするとともに、とくにどういう点について注意すればよいか、チェックポイントを集めてみました。みなさんひとりひとりの心がけが「火災のないまちへ」のいちばんの近道です。

防火のヒント

燃えにくく

防火のためには、火を使用する器具とその周囲の危険を除去することが大切です。

①不燃化 燃えやすいものを燃えにくくものに置きかえる方法
②熱のしゃ断 燃えやすいものを熱が伝わりにくくする方法
③この二つの方法が多く用いられています。

たえばコンロを使う台やそのまわりをモルタルでつくり、タイルを張るなど不燃化の例です。また、フロ場のたき口付近の柱などに石綿を巻くのは、熱いしゃ断の方法です。

実行為第一

防火の措置として二つの例をあげましたが、これを生かすために大切なもう一つのことがあります。それは頭を生かすことです。いまの暮しの中には、合理的で、スマートな防火の工夫をする余地がまだあるかと思えます。そしてこのことは、実行に移して始めて防火の効果があります。

空気を使う

金属は燃えにくいものです。だからといって炊事場の腰板にトタンやブリキを張りつけて、これで不燃化ができたと思ったら大きなまちがいです。金属は燃えにくいけれども熱を伝えやすいものです。つまり金属は、あつくなりやすいので表の金属は燃えなくても裏の板が炭化し燃えやすくなるからです。この場合には、トタンやブリキと板との間に空間を作ることで、つまり空気の熱を伝えにくい性質を上手に組合わせたもので、金属板と可燃材の空間に空気を守

金属は燃えにくいものです。だからといって炊事場の腰板にトタンやブリキを張りつけて、これで不燃化ができたと思ったら大きなまちがいです。金属は燃えにくいけれども熱を伝えやすいものです。つまり金属は、あつくなりやすいので表の金属は燃えなくても裏の板が炭化し燃えやすくなるからです。この場合には、トタンやブリキと板との間に空間を作ることで、つまり空気の熱を伝えにくい性質を上手に組合わせたもので、金属板と可燃材の空間に空気を守

楽しい家庭を火災から守るためにも、防火の四チェックにこころがけて火を使う場所や器具を注意して調べてみましょう。ちょっとした破損や故障でもそのまま放置した状態では使わないで、すぐ修理し、清潔に使いましょう。また、火の取扱についてよく考えて、火災が起らない、安全な扱いをするように家族みんなで努めましょう。

わが家の防火には

- ひとつのソケットやコンセントにいくつもの電気器具を同時につながらない。(タコ足配線。をしない)
- ヒューズは正規のものを使う。
- 器具のちょっとした故障でもすぐ専門家に相談して修理してから使う。
- 電熱器具は、用途にあった安全性が考えられているから、定められた用途以外には使わない。
- こころは不燃性の台の上で使う。
- 引込線が雨どいやトタン屋根に接触しているものや、風などで接触しやすいものは修理する。
- 電気器具は、必ず△マークのついた器具を購入しましょう(型式認可を受けたものを買う。)

煙突

- 煙突が屋根や壁などを貫通しているところには「めがね石」を使う。
- 煙突は壁からできるだけ離し、点検しにくいところは通さない。
- 煙突が破損したり、ひびが入ったりしたまま使わない。
- たき口の周りには、燃えやすいものを置かない。
- 火の粉が飛ばないように定期的掃除をする。
- 煙突は動かないよう針金で固定する。
- 火の粉の出るものは燃やさない。

家庭内でも引火性のものが多い

- ヘヤースプレー、ヘヤートニック、マニキュア、ベンジン、塗料、アルコール、除光液、殺虫剤—これらは、火のそばや火花のそばで絶対に使わない。使ったあとは、蒸発したり、倒れてこぼれたりしないようにすぐ完全に栓をする。

火事の際は—まず通報、初期消火

火事の際は、必ず、しまったとか

建物火災発生状況の推移

年次	出火件数	総人口	出火件数 1万人	損害額 (千円)	傷者
42	18	64,563	3.0	39,578	6
43	13	65,212	2.2	4,842	4
44	22	67,617	3.1	36,015	9
45	21	71,459	3.0	34,714	4
46	28	72,878	3.9	30,117	5
47	20	73,960	2.7	29,929	3

注—47年は11月末現在

年末、年始の休庁

市役所をはじめ市の機関は、いずれも十二月二十九日(金)から来年一月三日(水)まで休庁します。ただし次の部署は年末も窓口執務または作業をします。

○：市民課 社会課(保険係)
は二十九日と三十日、いずれも午前九時から正午まで。
○：水道部は二十九日と三十日

市役所をはじめ市の機関は、いずれも午前九時から午後五時までは十二月二十九日(金)から来年一月三日(水)まで休庁します。ただし次の部署は年末も窓口執務または作業をします。

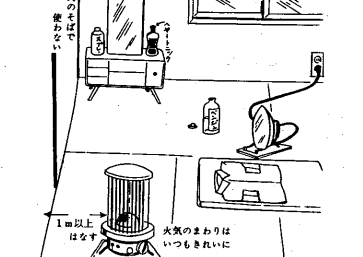
○：市民課 社会課(保険係)
は二十九日と三十日、いずれも午前九時から正午まで。
○：水道部は二十九日と三十日

火災予防には…どんなことをすればよいか

- 吸がら入れのあるところで吸い、灰吸がら、マッチは灰皿に入れる。
- 灰皿は、ふちが広く底の深いものなど安全なものを使う。
- 灰皿には水を入れる。
- 寝たばこはやる。
- 灰皿の吸がらを捨てるときは、水をかけて消火を確かめる。(ちり箱に捨てた吸がらから火事になった例も多い)。
- たばことともに、マッチの燃えさしにも気をつける。
- 器具の取扱いを家族みんながよく知っておくこと。
- 説明書に従って正しく使う。
- 燃料タンクに注ぐときは、必ず火を消してから。また、給油ポンプや安全な給油かんを使う。
- 囲りにこぼれた油はすぐふきとる。
- 火を必ず消してから移動させる。
- まわりの燃えやすいものを整理する。
- 燃料は、白灯油を使う。
- 白灯油は、火気のある場所から離れた安全な場所に保管する。
- 器具は、こみやほこりを取っていつもきれいにしておく。
- 電熱器具は、使用後、必ずスイッチを切ってコンセントからははずす。

- 火を使っている所の囲りは清潔にしておく。
- たき火をする場合は、風の強いときを避け、消火用の水を準備して安全な場所でする。
- 火を使用する器具は、正しい取り扱いをする。
- 煙突が屋根や壁などを貫通しているところには「めがね石」を使う。
- 煙突は壁からできるだけ離し、点検しにくいところは通さない。
- 煙突が破損したり、ひびが入ったりしたまま使わない。
- たき口の周りには、燃えやすいものを置かない。
- 火の粉が飛ばないように定期的掃除をする。
- 煙突は動かないよう針金で固定する。
- 火の粉の出るものは燃やさない。
- 寝る前や外出するときは、必ず火の

- 火を使っている所の囲りは清潔にしておく。
- たき火をする場合は、風の強いときを避け、消火用の水を準備して安全な場所でする。
- 火を使用する器具は、正しい取り扱いをする。



- ヘヤースプレー、ヘヤートニック、マニキュア、ベンジン、塗料、アルコール、除光液、殺虫剤—これらは、火のそばや火花のそばで絶対に使わない。使ったあとは、蒸発したり、倒れてこぼれたりしないようにすぐ完全に栓をする。
- 火事の際は—まず通報、初期消火
火事の際は、必ず、しまったとか

- 大変だと驚いてしまいますが、あわてないことがたいせつです。あわててしまうことは火事を大きくする原因です。ひとりでもみ消してしまおうとすることは、いちばん危険です。火事の際は、すぐに大きな声で隣近所に知らせして協力を求める。他人の協力なしでは、ふつう、火事は消せません。通報するものと、消火に当るものとに分けて行動します。
- 通報のし方
通報は、局番なしの119番で火事の場所、目標、状況をはっきり告げてください。所、番地、目標を知らせる。—たとえば「火事です。〇〇町〇番〇号〇〇小学校の東側の住宅です。石油コンロを倒しました。いまだ燃えています」また、近くに火災報知機があるところでは、報知機のガラスを壊し、中のボタンを押してください。ベルが鳴れば、消防署へ通じたこととなります。
- いつでもバケツに水を
火事は発見が早ければ、わずかな水で消すことができます。ふだんから消火用水を準備しておきましょう。前日の風呂の水をあげないでおくのも方法。
- 安全に避難を
ふだんから万一のときの避難方法などを考え、とくに老人、子ども、病人には気を付け、安全な場所へ避難させ

防火の4チェック

- ①安全な場所か
- ②安全な器具か
- ③正しい使い方をしているか
- ④あと始末はできているか

以上のことにちょっとした注意を習慣づけるだけで、私たちの芦屋から火災はほとんどなくなるでしょう。

